

## 令和元年度第1回久留米市スポーツ推進審議会議事録（要旨）

### 開催要領

1. 開催日時：令和元年10月4日（金曜日） 13時30分開会
2. 会場：久留米市荘島体育館 2階会議室
3. 出席者：委員12名  
満園委員・堀委員・中村（博）委員・岩城委員・大友委員・中村（智）委員  
佐藤委員・井手委員・高松委員・古賀委員・松藤委員・宮原委員  
：事務局4名
4. 欠席者：委員6名  
新井委員・森崎委員・轟委員・馬場園委員、中村敏委員・田中委員
5. 傍聴者：なし

### 議事次第

1. 新委員紹介
2. 会長あいさつ
3. 議事
  - （1）平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画について
  - （2）久留米市スポーツ振興基本計画の総括について
  - （3）次期計画の策定について
    - ①久留米市教育委員会からの諮問について
    - ②久留米市スポーツ推進計画の策定について
4. その他

### 配付資料

- 資料① 令和元年度久留米市スポーツ推進審議会次第
- 資料② 令和元年度久留米市スポーツ推進審議会一別紙資料集一
- 資料③ 久留米市スポーツ振興基本計画の総括について
- 資料④ 久留米市スポーツ推進計画の策定について（諮問）（写）
- 資料⑤ スポーツ基本計画
- 資料⑥ 福岡県スポーツ推進計画
- 資料⑦ 久留米市スポーツ振興基本計画（事業体系見直し版）

## 議事録

### 1. 新委員紹介

<事務局>

事務局より令和元年7月1日付けでの委員就任のお礼と委員の紹介。

委員18名中現在12名の出席であります。久留米市スポーツ推進審議会条例第7条第2項に定める定足数に達しており、会議の成立を報告。

### 2. 会長あいさつ

前回の計画策定時も関わらせていただいている。来年度からの新計画が少しでも良いものとなるよう、審議していきたい。よろしくお願いします。

### 3. 議事

- (1) 平成30年度実績報告及び令和元年度事業計画について、事務局より説明。
- (2) 久留米市スポーツ振興基本計画の総括について、事務局より説明。
- (3) 次期計画の策定について事務局より説明。
  - ①久留米市教育委員会からの諮問について
  - ②久留米市スポーツ推進計画の策定について

<質疑>

【委員】

資料P9ページの次期計画の策定について「取り組みの視点」の中で5点示されているが、これまでの成果と課題、これからの環境の変化を踏まえた整理だが、この中から3点意見を聞きたい。

1点目は健康づくり機会の充実、これから高齢化社会になるため、この分野が重要になる。この中で特に保健分野との連携・役割分担をどうしていくのか。次期のスポーツ推進計画の中に保健分野も取り組むのかどうか。取り組むならどういった体制で、どういった関係機関と連携していくのかを整理していく必要があると思う。

2点目だが、スポーツは青少年の健全育成に効果がある。学校教育分野も子供たちの体力向上に取り組んでいるため、スポーツの計画と学校教育の計画をどのように整合性を保つのか。

3点目は、eスポーツがスポーツという形で社会的認知度が高まっている。次期計画の中でこの点に取り組むのか。

以上の点について、意見を聞きたい。

【委員】

1、2点は行政ができる一番大きな大事なこと。

1点目について、保健所と情報共有化と役割分担が重要と思う。保健所に健康推進課があるが以前よりは連携しやすくなったこと、さらに、今後の高齢者を見据えたら、連携を進めないといけないと思っている。

2点目については、この視点は国・県からのダウンサウジングになっている。ここで、2点言いたい、1点目は、地域の活性化は地域の特徴を見据えないと、他と同じことをしても無駄になるということ。

例えば、今月26日に日本スポーツ協会（JSPO）のタレント発掘事業を久留米大学で請け負った。それは、久留米市は九州のへそで、九州全県から人が集まりやすいこと、それを踏まえ JSPO からの依頼を受けた。

地域の利便性なり特性、集まりやすい場所で何をしていくかが重要になってくる。

2点目は各種データベースを作ることは今の時代、基本になっているが、どこの自治体も個人情報保護法の問題で苦勞している。本来個人情報はシャットアウトするためにできたわけではない。大変だが、共有化することが出来れば、自治体としての能力はすごく上がる。その仕組みづくりが大変。

わかりやすいのは先ほど提案のあった、学校との繋がり、小中学校は文科省の指導で体力・スポーツテストが義務化されているが、結果が無駄に捨てられて横断的比較にしかになっていない。ビッグデータとして紐付けがなされていない。これは、久留米だけの問題ではない。

その為、国の指示があると自治体を動かしやすいが、そうではなく、地道に説明する側と自治体と協力しデータベースを作ることが必要。企業でのIR化は当たり前になっているが、IRを扱う相手が市民のため簡単ではないが、施策としてデータベースは実態としての意味を持っている。なので、いくら計画に数値があっても実態を伴うかは、これからはIRにかかっていると思う。自治体のIR化は必要だと思う。そこを出発点に考えていただきたい。

#### 【委員】

みやま市で4月よりグローバルマネジメントセンターを管理運営しており、データベース化で専門家を呼んで市と連携し取り組んでいる。データベース化はこれから必要になっていくと思う。

#### 【委員】

久留米市の自治体規模はデータベースを作るうえでぎりぎりの規模と思う。コンパクトシティが大事。筑波大学の久野教授の話によると、つくば市では規模が大きすぎて上手くいかなかった。届けたいところに届いていないことから、健康づくりにおける運動実施の普及率向上と言う国の施策は失敗している旨、報告があった。そのような中、久留米市の運動実施率のアンケート調査の実績はよくやっていると思う。ただし、それ以上を求めるようにするのは、届けようとしても先方の聞こうとする意志がないため非常に難しい。だったらどうするのか。データベース化は基本的なことだけであり必要な事だと思う。

#### 【委員】

P8の実績で「ハンドボール実技講習会」があるがなぜハンドボールのみなのか。

### 【事務局】

ハンドボールのみ指導者養成の支援として、市の体育協会を通じ補助金を出している分として記載しております。他の団体はそれぞれで独自に機会を設けて実施しています。

### 【委員】

要するに、他の競技団体と比べると小さな団体で、自分たちでやれないから支援しているということですね。

### 【委員】

小学校の現場では、体力について2極化が進んでいると感じている。社会体育をしている生徒は、昼休みでも遊んでどんどん体力向上する中、家の中でゲームをして運動が苦手な生徒も増えている。小学校の中で苦手意識をなくすための努力を行っている。下手でもいいから運動を続ける努力をしている。そのような中、以前総合型地域スポーツクラブで学校の体育の授業に来てもらったことがあった。苦手意識をなくすために楽しさを味わう、本物に出会うことを目的に、今後も出来たらいいと思っている。

### 【委員】

システム化されていないだけで、総合型クラブの中で今も行っている。ハンディキャップを持った子供たちのパラスポーツが盛んなため、来週も京町小学校、高良内小、西国分小で行う予定にしている。また、そのようなシステム化ができればいいと思っている。

それともう1点は、障害者スポーツの窓口がわからない点がある。体育スポーツ課なのか社会福祉協議会なのかがわからない。スポーツ振興基本計画の中に障害者スポーツの推進は十分ではないと記載されているがそのとおり。窓口の一本化を求める。県大会、全国大会に出場するためには、社会福祉協議会から申し込まないと受け付けてもらえない状況などがある。福岡県では進んでいるようだが、市はできていない。レクリエーションは社協に残していいと思う、移行できる分は体育スポーツ課に移行したほうが良いと思うし、次期スポーツ計画の中に障害者スポーツのことを区別なく扱うことを入れてほしい。

県の計画には区別することなく障害者スポーツに取り組むとあり、それでもいいと思う。

### 【委員】

情報の共有化をして横のつながりが大事で、一本化することも大事だとは思いますが、役割分担をしっかりとすべきだと思う。パラアスリートは体育スポーツ課と思うが、下を支える中間層や裾野を広げることは体育スポーツ課と社会福祉協議会で担う。パラアスリートがトップアスリートとして固定化されており、中間層が薄いためなかなか選手の新陳代謝が起き難い。長い目で見たときにそれが良いかと言われるとそうではない。オリンピックについては新陳代謝が当たり前で、今のパラリアンはそのような体制になっていないと思う。

また、ブリヂストンはオリパラのトップ・スポンサーであるため、アスリートを自由に使える所があり、久留米をリスペクトしているため久留米でトップアスリートを呼んで教

室など行っている。行政という枠組みで組織づくりをしっかりとしていき、他との情報共有が重要と考える。前任の厨先生とも相談したことが、計画をどう具現化していくかが重要となる。必要なデジタル化と不必要なデジタル化がある。必要なことを数値化してほしい。その前提がデータベース化である。そして、きちんと情報の共有をしていければいいと思っている。

#### 【委員】

9月23日に中高齢者を対象の健康づくりのイベントを健康運動指導士会で開催した。久留米市の後援をもらったりしたが、人集めが難しいと感じた。延べ800人程度来ていただいたが、企業からの協賛をいただいたりしたが、行政とのつながりをより深く持ちたい。また、アスリートの為に栄養学について、行政としてどのような考えを持っているかを教えていただきたい。

#### 【事務局】

平成29年度にアスリートフードマイスターの資格を持つ先生に来ていただいて、栄養学セミナーを開催した。今現在も三潁地域で栄養学の講習会を開催している。

#### 【委員】

アスリートフードマイスターという資格はどのような資格なのか？

#### 【事務局】

一般社団法人日本アスリートフード協会が認定する民間の資格です。

#### 【委員】

スポーツ栄養士という資格を日本スポーツ協会が出している。そちらのほうがトップアスリートという意味では一番担保されているものだと思う。個人的には、地元にあるのをうまく使い育てるべきで、市民の協力が不可欠だがないものは外に求める。地元には信愛女学院もある。やみくもに外注することや、資格に基づくことは良いことではあるものの、資格の背景は確認した方が良い。

そして、ここで出ている話題は、この場で情報を共有化して、皆さんが持ち帰ればよいと思っている。

#### 【委員】

もう一点、骨密度の低い高齢者が多いが、それは子供の頃からの栄養と運動が影響している。また、小中学生の時に体が形成されていくため、やはりいくら苦手でも、外で楽しみながら遊んだりするのが大事と思う。

#### 【委員】

結局データがない。きちんとした証拠がなく状況証拠だけである。体力測定データを

軸にし、例えば、ケガをしやすいつか、身長・体重との関係など、体重は少なくとも栄養管理の中で基本中の基本である。それだけで意味が全然違ってくる。しかし、そのようなきちんとしたデータがない。

**【委員】**

なので、データベース化することをきちんとプロの方に頼むなどしていかないといけないと思う。

**【委員】**

データを取るということは、現場の方たちの理解と現場の人の苦労が一番大きい。

**【委員】**

九大の「久山スタディ」は、データ量が膨大で世界的にも評価されている。

**【委員】**

「久山スタディ」は久留米大学でやっていた「田主丸スタディ」のほうが古い。ただ、「田主丸スタディ」は宣伝、そのプロセスが上手いかず、データに虫食いがあった。そういう面では、久留米大学も宣伝が下手、決定打が足りない。ただし先行していることは間違いない。

**【委員】**

久留米大学は医学部がある。その為体系化していけばもっといいものができると思う。

**【委員】**

私はそこに在籍しており、始まったばかりで簡単には変わらないが、仰る通りだと思う。健康運動指導士が一番必要性があるのは医療法42条の施設。そことの繋がりができると全然違うと思う。これは、医療法人がもっている会員制のスポーツクラブで、そこには運動指導士がいらないといけないが、この辺りでは少ない。

## **5. その他**

次回日程：10月30日（水）午後予定。

**【会長】**

次期計画の策定についてですが、たたき台となる素案の作成については事務局にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか？

(異議なし)

以上を持ちまして、第1回スポーツ推進審議会を閉会いたします。 (15:00 閉会)